

交通信号機の施工、保守点検を手がけ、安全・安心な交通社会の実現に向け力を尽くしていく

協栄シグナル設備は、交通信号機の施工、保守点検を行う企業だ。社員を大切にしている取り組みによって技術者のパフォーマンスを引き出し、安全、確実、スピーディーな工事で定評がある。今、新事業であるスキンケア用品「ALL IN ONE MOUSSE (オール・イン・ワン・ムース)」の販売でも注目されている。



代表取締役 下田 恵生氏

- 代表者 代表取締役 下田 恵生
- 設立 昭和50年12月
- 資本金 1,250万円
- 従業員数 17名
- 事業内容 交通信号機設備工事の設計・施工・保守、電気配線・配線工事の設計・施工・保守、とび・土工・コンクリート工事の設計・施工・保守
- 所在地 〒340-0202 埼玉県久喜市東大輪364-1
TEL 0480-57-1241 FAX 0480-58-1980

●URL <https://www.kyoei-signal.co.jp/>



埼玉県を中心に、交通信号機設備工事に特化して事業を展開する協栄シグナル設備株式会社は、信号機の施工、保守点検を手がけている。

工事は、埼玉県や埼玉県警察本部が行う入札で落札して受注するほか、道路改修等に伴い、各道路管理者との協議や指示に基づき工事を受注するケースもある。同社はこうした案件を通じて、元請事業者をはじめとする多くの建設会社との取引機会が増えている。

「当社は、押しボタン式の歩行者用信号機を2灯つける工事から、幹線道路に車両用信号機を20灯つける大型工事まで、幅広い規模の工事を行っています」(下田恵生社長)

令和10(2028)年3月末に、交通信号機用の白熱電球の製造が終了する。そのため現在は、白熱電球から発光ダイオード(LED)式信号機への切り替え工事が全国で急ピッチで進められている。

同社もこの追い風を受け、事業は大きく成長している。そして現在、次のステージとなる車の自動運転化に伴う信号機工事の技術とノウハウの獲得に力を注いでいる。

→ 交通信号機工事の将来性を予見して起業

「私の父は、埼玉で有線電話の営業の仕事をしていました。知り合いから『交通信号機工事を行う企業は少ないから、この先きっと伸びる。一緒に事業をやらないか』と誘われて会社を興した、と父は話していました」

そして、下田社長の父ら3人は、交通信号機工事を手がける会社で働きながら技術を身につけ、昭和50(1975)年に同社を創業する。

1960年代半ば以降、モータリゼーションが到来し、道路が次々と敷設されて交通信号機の設置数は爆発的に増加する。同社は、たいへん苦勞の多い創業期を経て、全社一丸となって地道に少しずつ業績をあげていった。

下田社長は文具メーカー勤務を経て、平成6(1994)年同社に入社する。当時は信号機の設置工事が右肩上がりに増えていた時代で、先輩技術者に学びながら技術を身につけ、強力な戦力として同社の成長に貢献した。そして平成19年、社長に就任する。

「初代社長は創業メンバーの1人。2代目は私の叔父、そして私が3代目になります。当時、土木・建築業界は

仕事がハードということもあって、人材の採用が難しかった。当社は、交通の安全と安心を支える仕事で、やりがいは十分にあります。そうした、社会に貢献する誇りある仕事であることを伝え、共鳴する人に来てもらいたいと思いました」

そこで採用活動と併せて、社員に長く働いてもらえるように職場環境や福利厚生を整え、“社員ファースト”の姿勢で働きやすさを追求した制度作りに力を注いでいった。

その後、中途採用や社員の知り合いが入社するなどして社員数は増え、現在は工事を担当する技術者が11名在籍する。年齢層は20~30歳代が半数以上と若く、かつ高い定着率を誇っている。

→ 高い専門性と技術力を積み上げてきた50年

交通信号機の工事では、埼玉県や埼玉県警察本部の入札工事の場合、警察の設計指示に沿って地面を掘り、信号機柱を建てる。その後、灯器（赤青黄のレンズの部分）と制御機（交通管制センターと情報の送受信を行い、灯器の3色の表示を制御する機械）を取りつけて架空線をつなぎ、安全に作動するかどうかの動作確認を行うのが一連の流れだ。

さらに同社は、委託を受けて業務を行っている区域の保守点検なども行い、交通インフラを支えている。

施工において信号機柱用の穴の掘削は、地中に埋設されている水道管やガス管などを傷つけないよう工機を使わずに手作業で行い、かつ誤って管を破裂させ住民に迷惑をかけることのないよう丁寧な作業が求められる。

また、信号機の灯器交換等の工事ではその間信号機が作動しなくなるため、交通誘導員や場合によっては警察官の配置が必要となる。交通への影響を極力抑えるためにも、迅速で正確な工事が要求される。

つまり、トラブルのない丁寧で安全な作業を行い、できるだけ工期を短くすることが重要なのだ。

同社は安全、確実、スピーディーな工事で定評があ

る。これは長年多様な交通信号機工事を手がけ、経験、ノウハウを蓄えてきた取り組みの賜物だ。

さらに、災害時におけるライフラインの確保や安全性の向上、景観等の観点から国が推進する「無電柱化（電線等を地中に埋設して地上の電線や電柱をなくすこと）」においても、早くから施工を請け負い、実績を積んでいる。

→ 社員をいたわり、育てていく取り組み

“社員ファースト”を掲げ、それに向けた福利厚生の



充実を図っている同社。会社で整体師のマッサージを受けられるという制度やリフレッシュ休暇の導入、食事手当の付与、さらに家族や友人との旅行等に活用できる“遊興費”を年間1人10万円付与するなど、盛りだくさんの内容だ。

「月2回無償でマッサージを受けられる福利厚生は社員にも大好評で、長年続けています」

社内環境は、コミュニケーションが活発で風通しも良く、チーム一丸となって仕事ができる体制が整えられている。

教育においては数年前から新入社員に向けたマニュアルを作成し、それを基に指導が行われ、さらに現場では先輩が新人をしっかりサポートしながら成長を支えている。

また、資格取得後の手当も用意され、交通信号機工事に必要とされる電気工事士、電気工事施工管理技士、交通信号工事士などの資格を多くの社員が取得している。



(左)「ALL IN ONE MOUSSE」のチラシ、(右)同商品



社員で神社参拝

→ 日々の困りごとから生まれたスキンケア商品

同社は令和5年、株式会社STEMING(ステミング)を立ち上げ、今年3月にスキンケア用品「ALL IN ONE MOUSSE(オール・イン・ワン・ムース)」を発売した。

外で作業する時間が長いと、日焼けや乾燥など肌へ

のダメージが大きくなる。長年工事を行ってきた下田社長自身がそれを実感し、現場で働く人たちが手軽にケアできる商品はないだろうかと考え、化粧品OEM会社と開発したのがこの商品だ。

1本に化粧水とたっぷりの美容成分を入れ込み、洗顔後、ピンポン玉1~2個分の泡を手に出して肌になじませるだけで肌が整えられて潤うという優れたスキンケア用品だ。発売以降、その手軽さから注目が集まり、「埼玉県久喜市ビジネスグランプリ2024」のアイデア賞にも輝いた。

「工事作業をする方だけでなく、交通整理の方やアウトドアのシーンでも活用できます。男性向けに作りましたが、女性の方にもおすすめです」

使用した人の感想は、「乾燥が抑えられ、しっとりする」「手軽にケアできる」等の声が上がっており好評だ。現在、STEMINGのECサイトで販売を行っているが、将来的には大手通販サイトや作業服等を取り扱う小売店での取り扱いを視野に入れ、2本目の事業の柱へと育てていく考えだ。

→ 自動運転化に向けたインフラ整備に貢献

現在のLED化という大きな動きの後、次に交通信号機に求められる要素が、センサーやカメラ等を付帯して車と通信し、自動運転を支援する機能だ。

「前回の東京五輪の時に実証実験を行い、当社も工事を行いました。実用化はまだ先になるでしょうが、いずれその需要も生まれてくる。そうした工事に向けた技術を積んでいきたいです」

同時に、現在埼玉県を中心とする商圏を東京や茨城などに広げて、より一層の成長を目指していく。そのためにも「良い人材を採用して、企業の基礎体力を蓄えたい」と下田社長は語る。

交通の安全を守り、社会に貢献することをやりがいと歩んできた同社の50年。今後もその歩みを止めることなく、自動運転化で大きく変わろうとする交通社会のインフラ整備に力を尽くしていく。